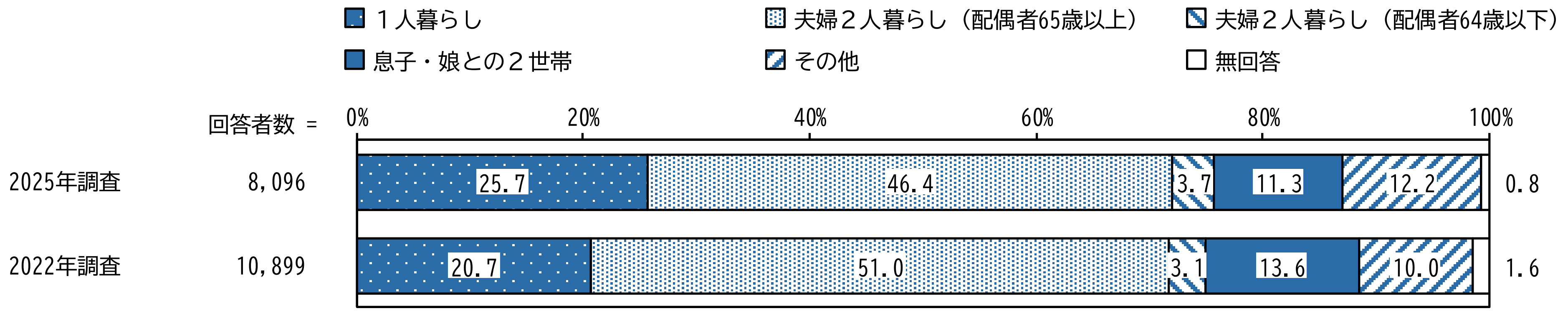
高齢者一般調査
調査結果

２０２５年度

神　戸　市

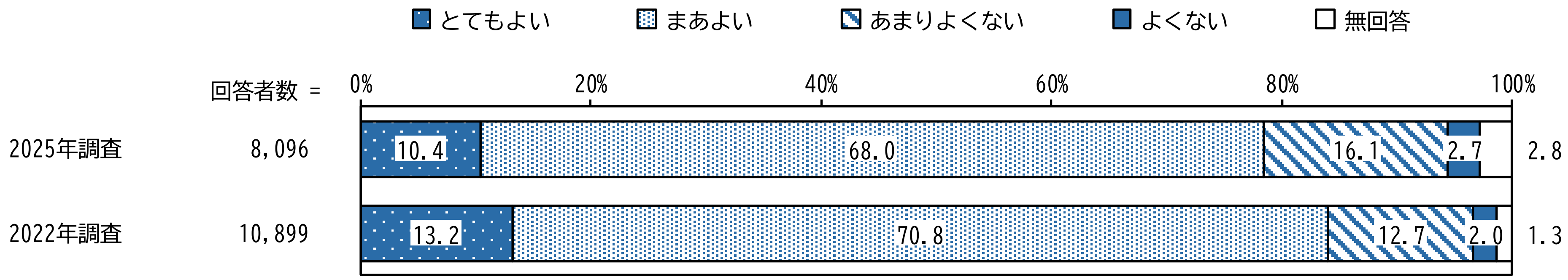
家族構成

家族構成は、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 46.4%で最も多くなっている。
前回調査と比較すると、「１人暮らし」が 5.0 ポイント高く、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 4.6 ポイント低くなっている。



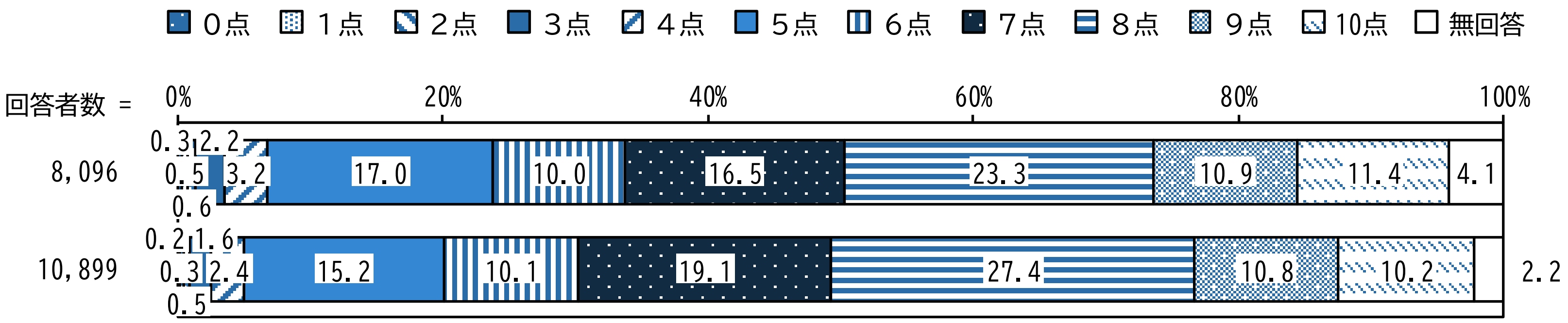
健康状態

健康状態は「よい」（とてもよい、まあよい）が 78.4%となっている。 前回調査と比較すると、「よくない」（あまりよくない、よくない）が 4.1 ポイント高く、「よい」（とてもよい、まあよい）が 5.6 ポイント低くなっている。



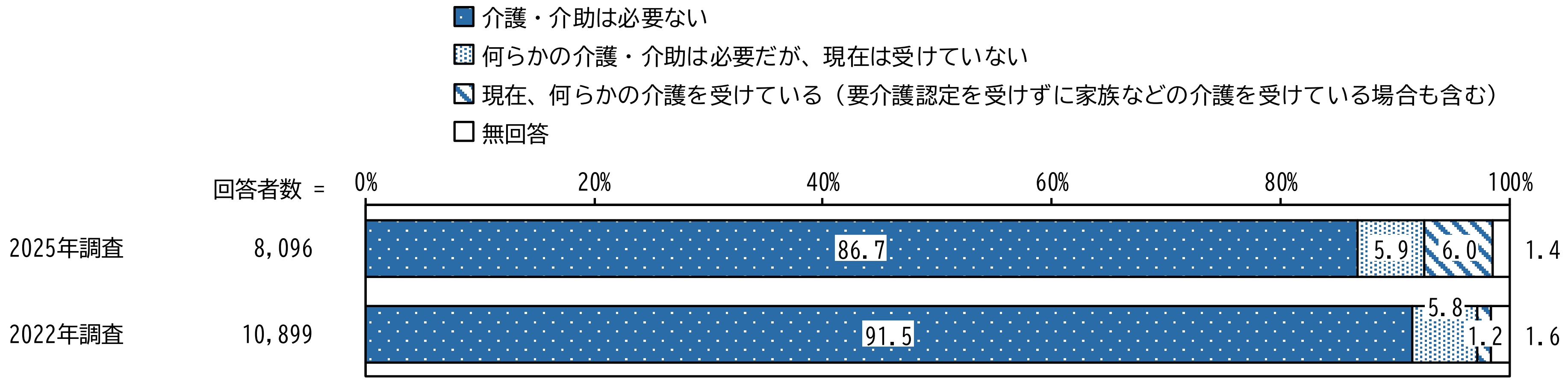
主観的幸福感

主観的幸福感は、「８点」が 23.3%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「８点」が 4.1 ポイント低くなっている。



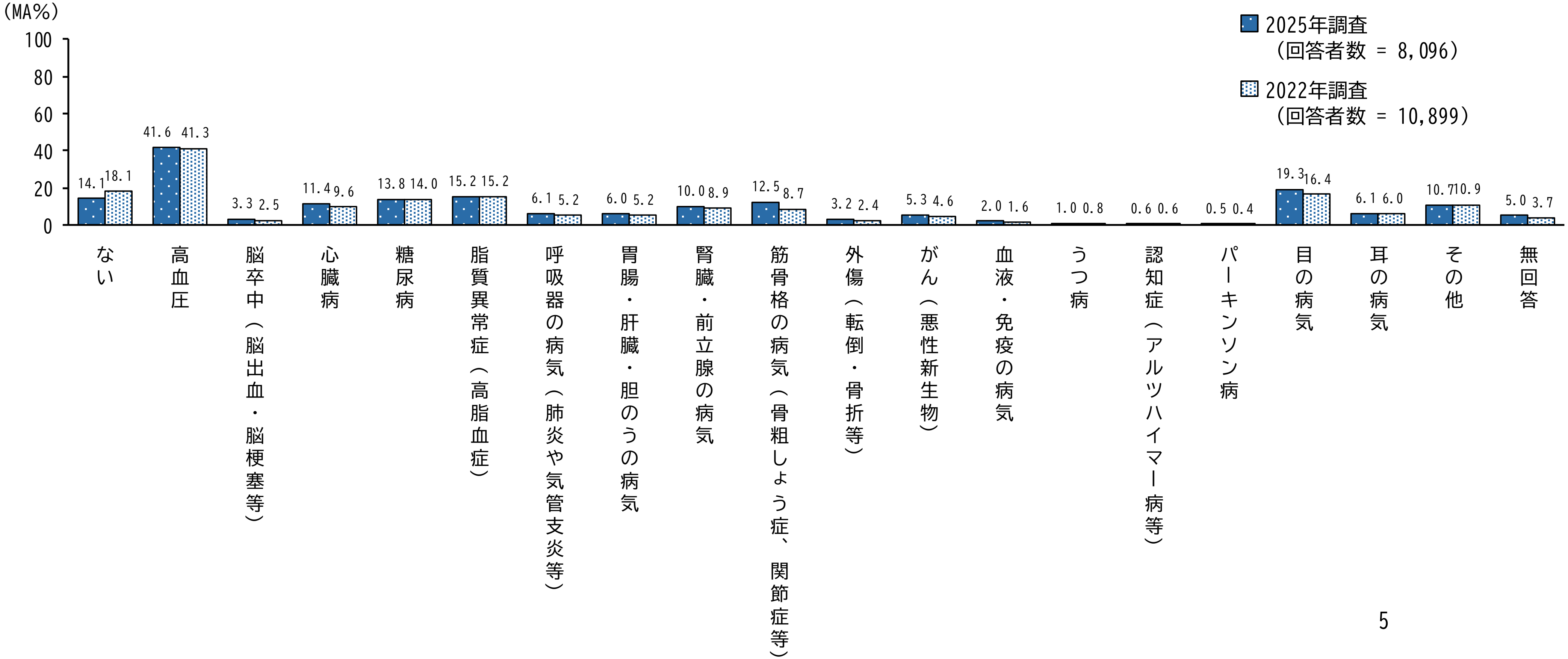
介護・介助の必要性

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が 86.7%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「現在、何らかの介護を受けている（要介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 4.8 ポイント高く、「介護・介助は必要ない」が 4.8 ポイント低くなっている。



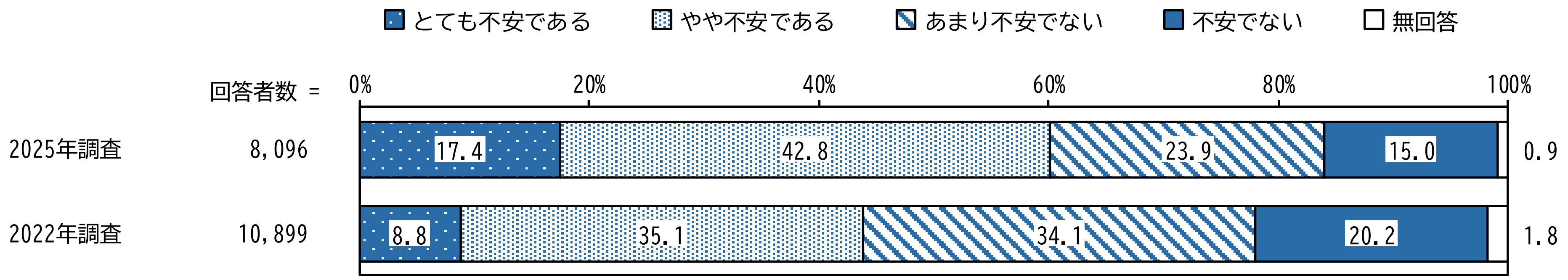
現在治療中または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が41.6%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が3.8ポイント高く、「ない」が4.0ポイント低くなっている。



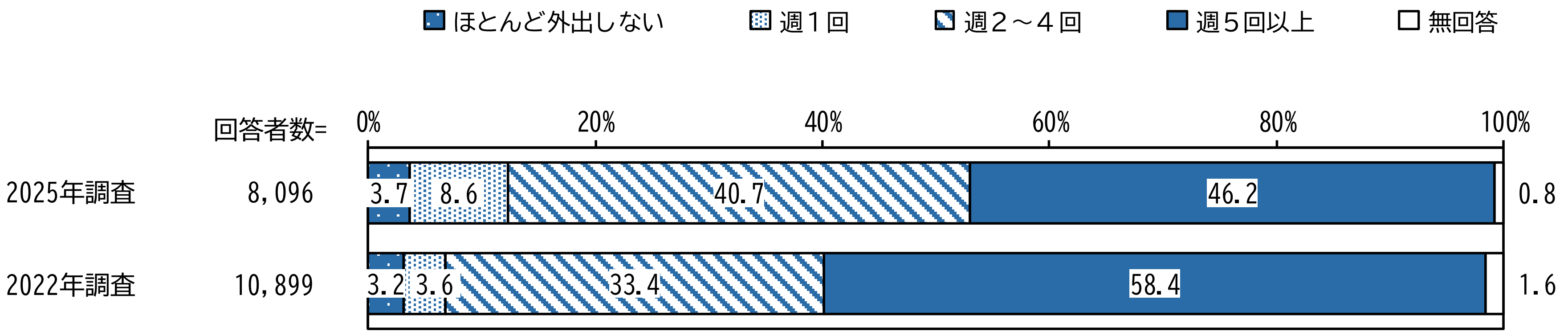
転倒に対する不安

転倒に対する不安は、「不安である」(とても不安である、やや不安である)が 60.2%となっている。 前回調査と比較すると、「不安である」(とても不安である、やや不安である)が 16.3 ポイント高く、「不安でない」(あまり不安でない、不安でない)が 15.4 ポイント低くなっている。



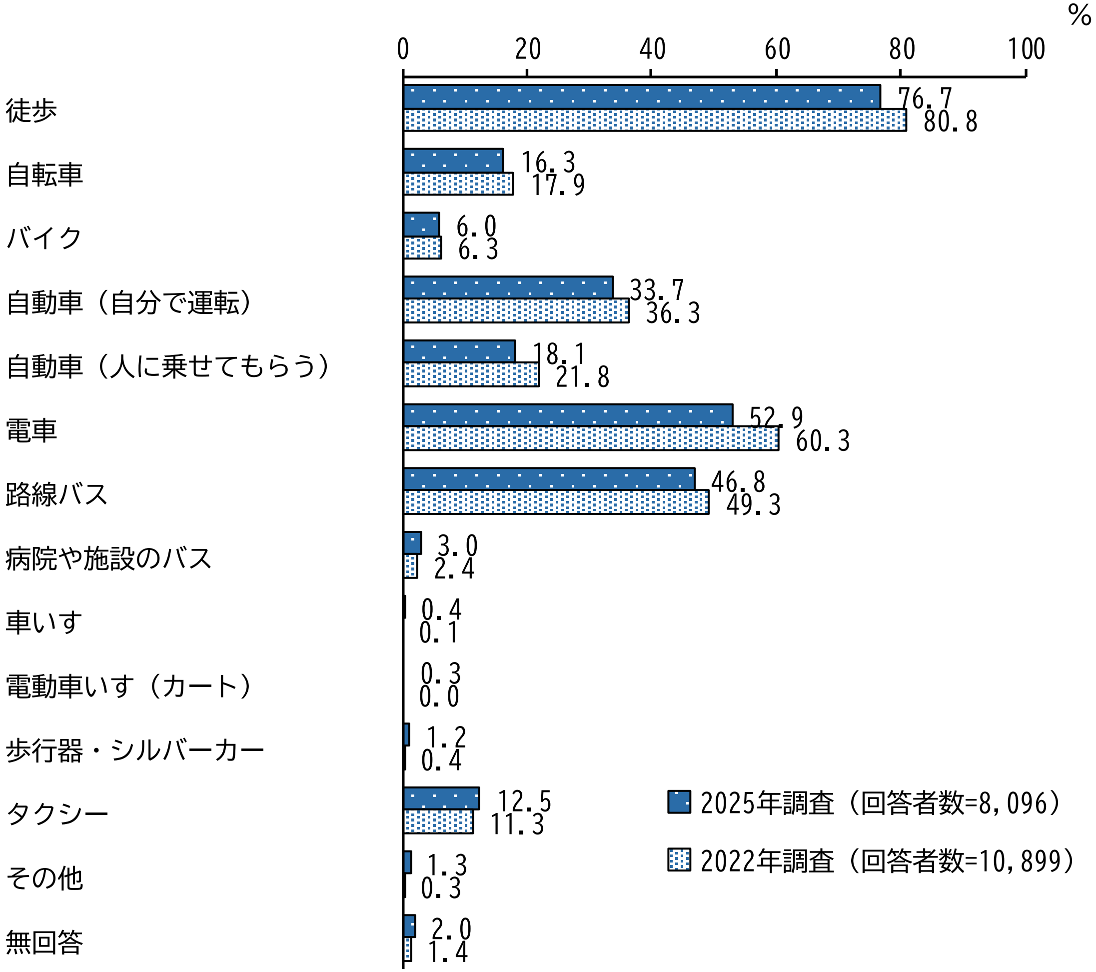
外出頻度

外出頻度は、「週５回以上」の割合が 46.2%と最も高く、次いで「週２～４回」の割合が 40.7%となっている。



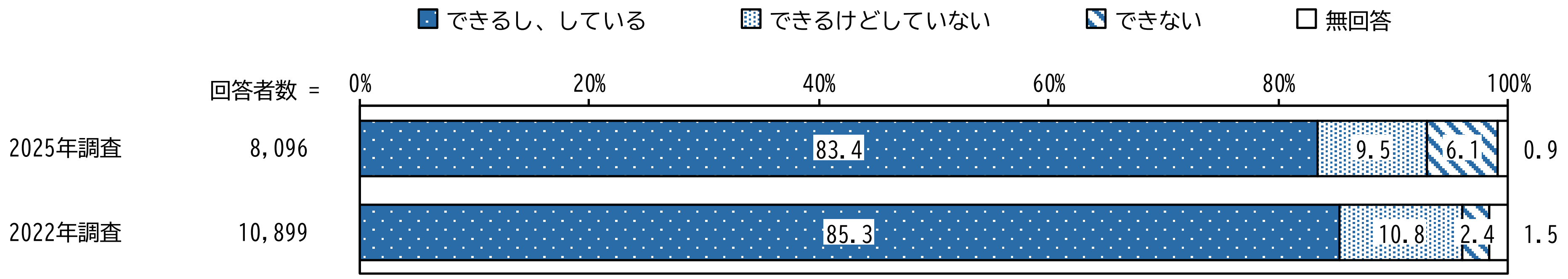
外出時に利用している交通手段

外出時に利用している交通手段は、「徒歩」の割合が 76.7%と最も高く、次いで「電車」の割合が 52.9%、「路線バス」の割合が 46.8%となっている。前回調査と比較すると、「電車」が 7.4 ポイント低くなっている。



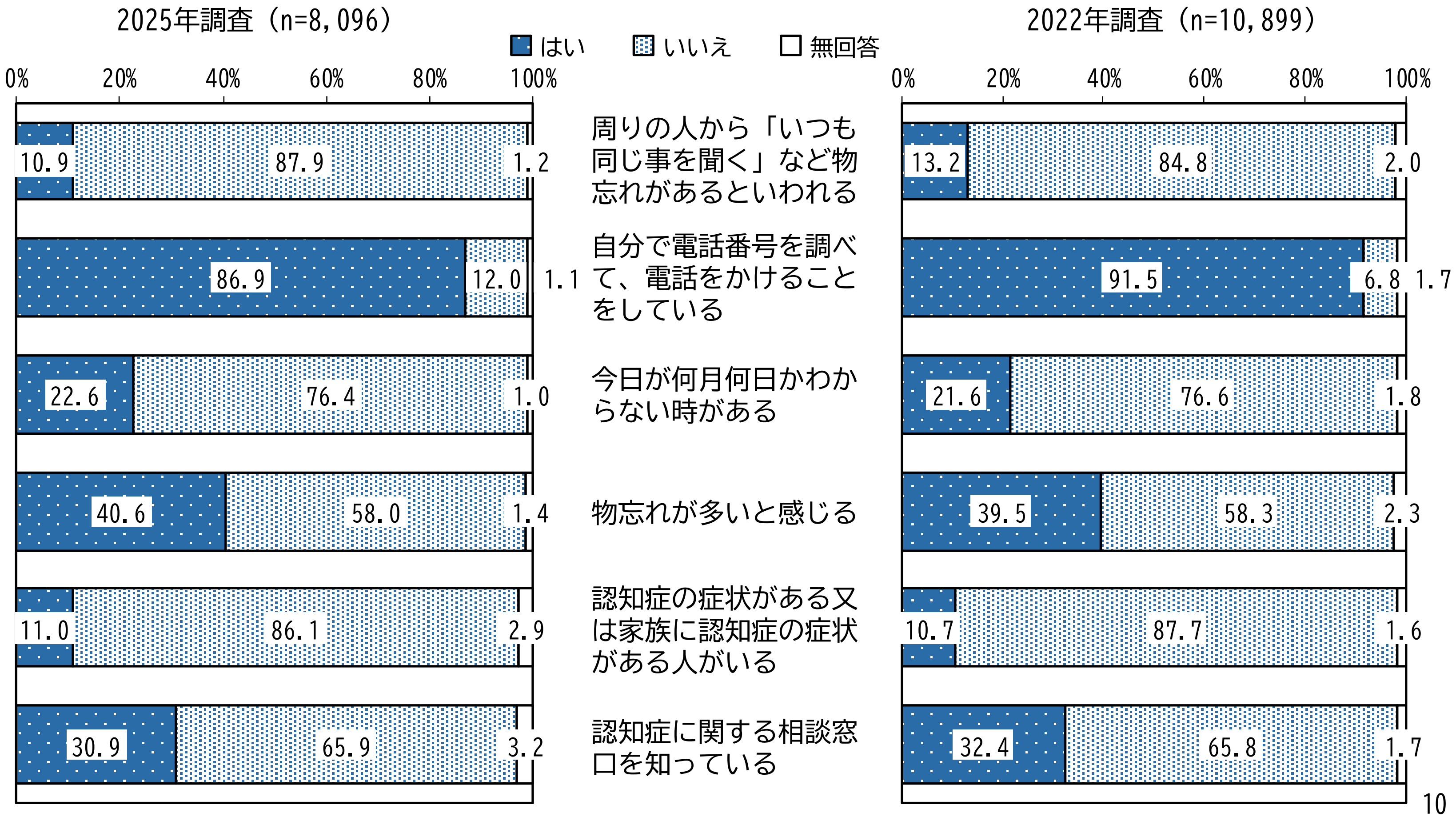
１５分位続けて歩くこと

１５分位続けて歩くことができるかについて、「できるし、している」が 83.4%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「できない」が 3.7 ポイント高くなっている。



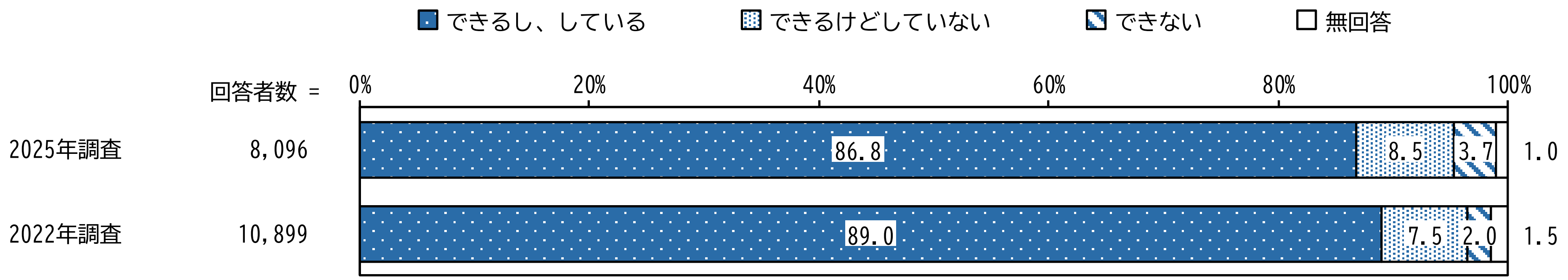
物忘れや認知症について

物忘れがあるといわれる人は、前回調査より、「いいえ」が 3.1 ポイント高くなっている。
自分で電話番号を調べて、電話をかけている人は、2022 年調査より、「いいえ」が 5.2 ポイント高くなっている。



バスや電車を使って１人での外出

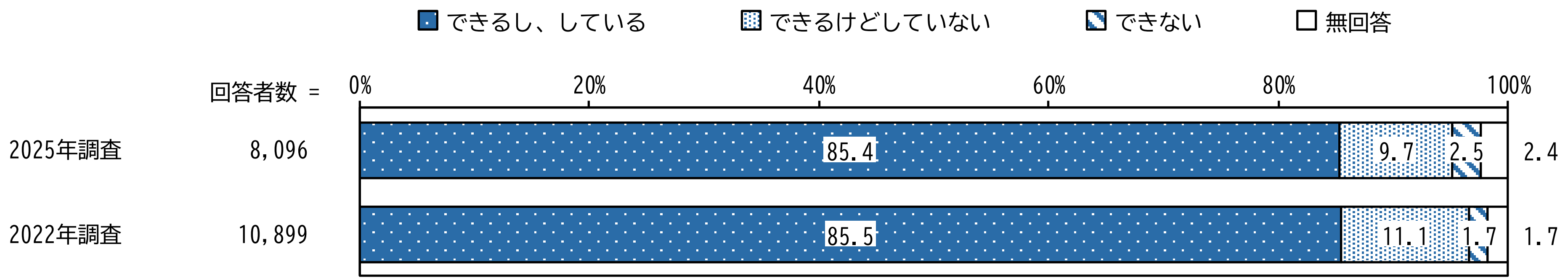
バスや電車を使って１人で外出しているかについては、「できるし、している」が 86.8%で最も多くなっている。



■日常生活について

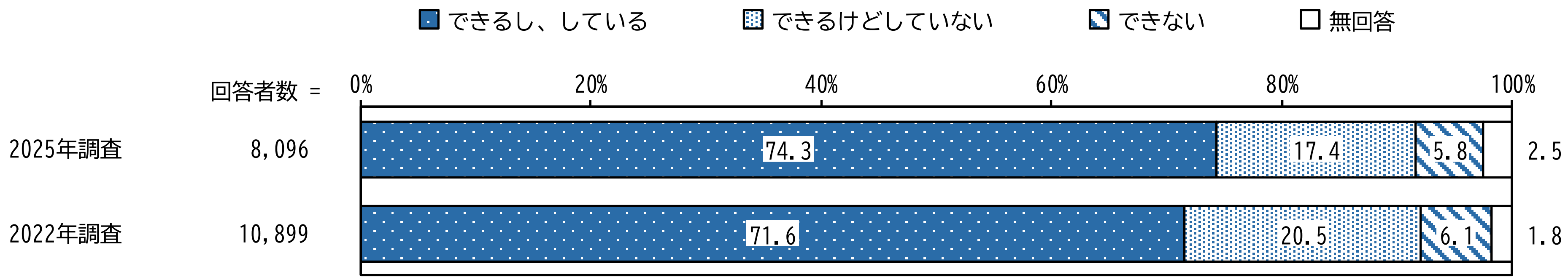
自分で食品・日用品の買い物

自分で食品・日用品の買い物をしているかについては、「できるし、している」が 85.4%で最も多くなっている。



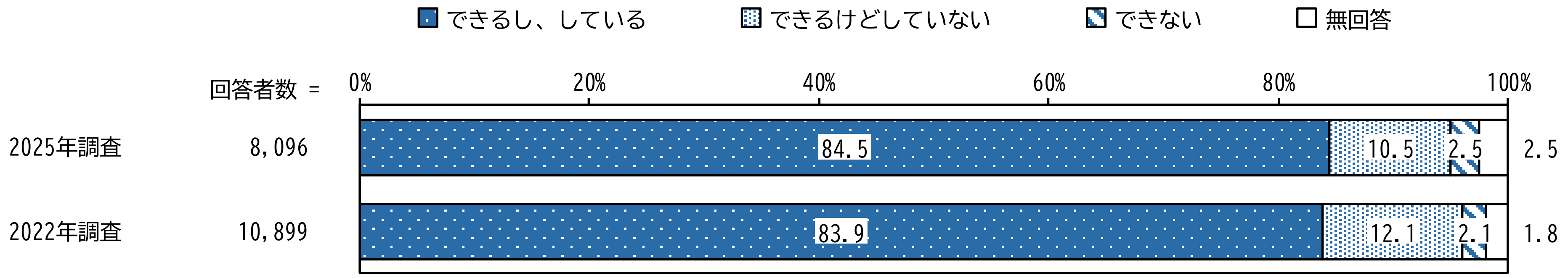
自分で食事の用意

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が 74.3%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「できるけどしていない」が 3.1 ポイント低くなっている。



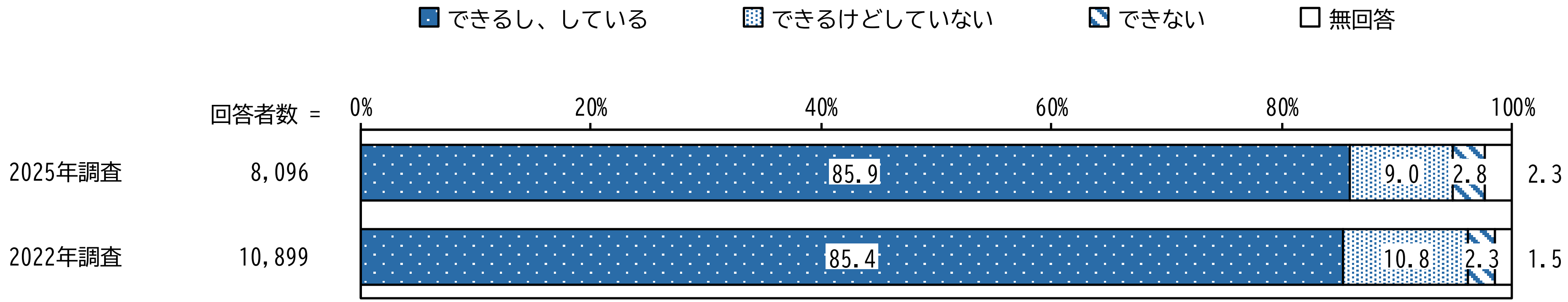
自分で請求書の支払い

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が 84.5%で最も多く、大きな差はみられない。



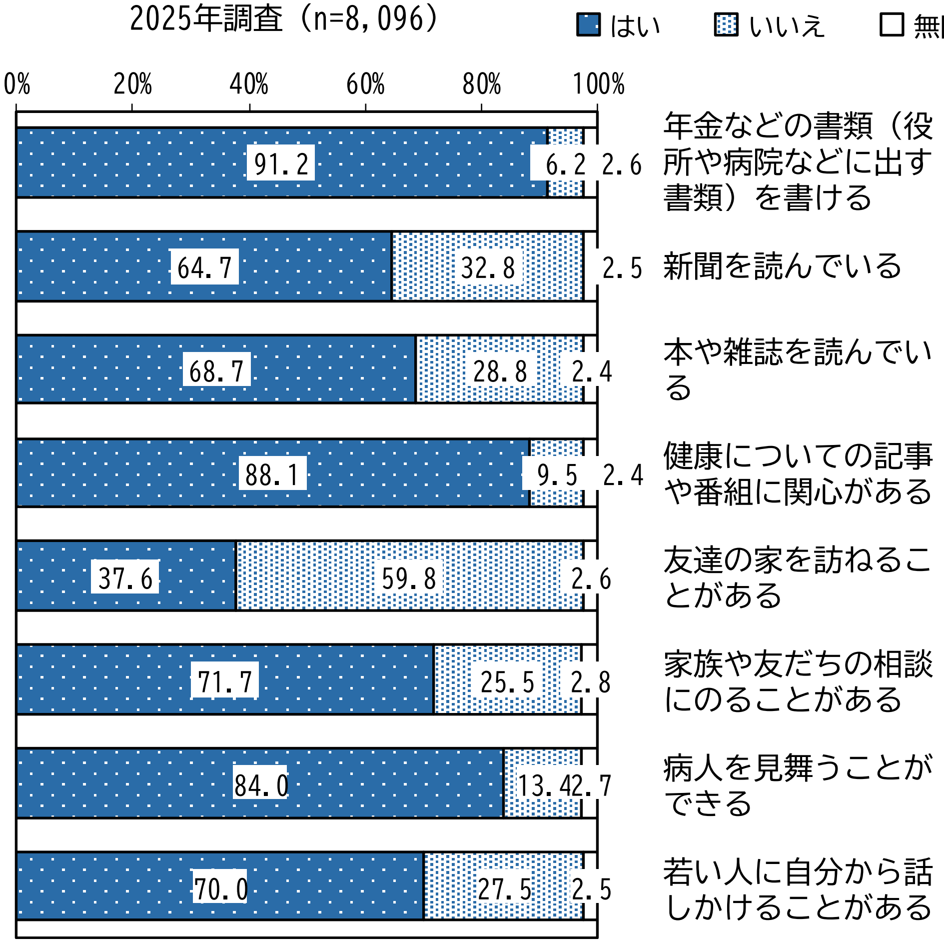
自分で預貯金の出し入れ

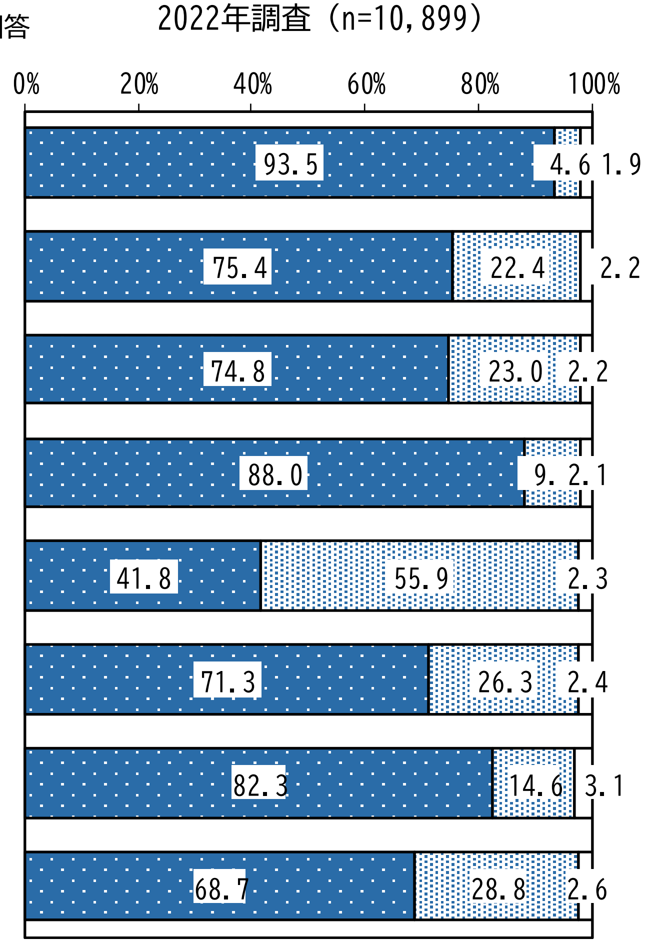
自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が 85.9%で最も多く、大きな差はみられない。



読み書きや人づきあいなど

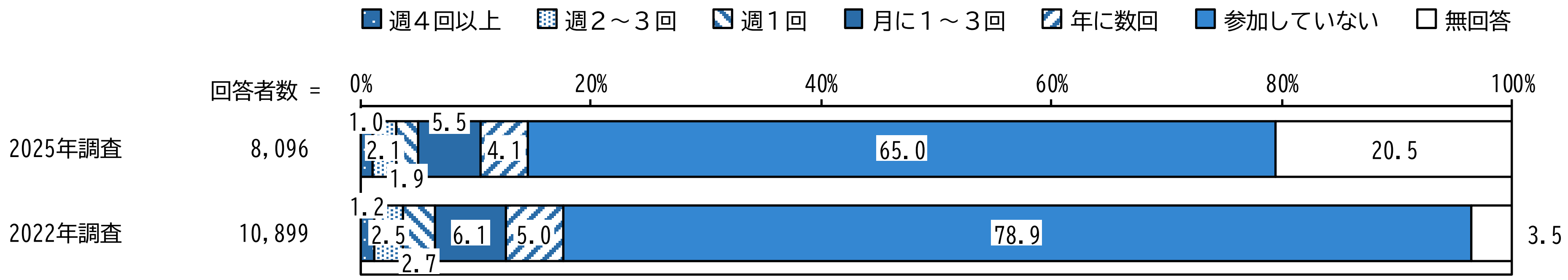
新聞を読んでいる人は、前回調査より、「いいえ」が 10.4 ポイント高くなっている。
本や雑誌を読んでいる人は、前回調査より、「はい」が 6.1 ポイント低くなっている。
友達の家を訪ねることがある人は、前回調査より、「はい」が 4.2 ポイント低くなっている。





ボランティアのグループの参加頻度

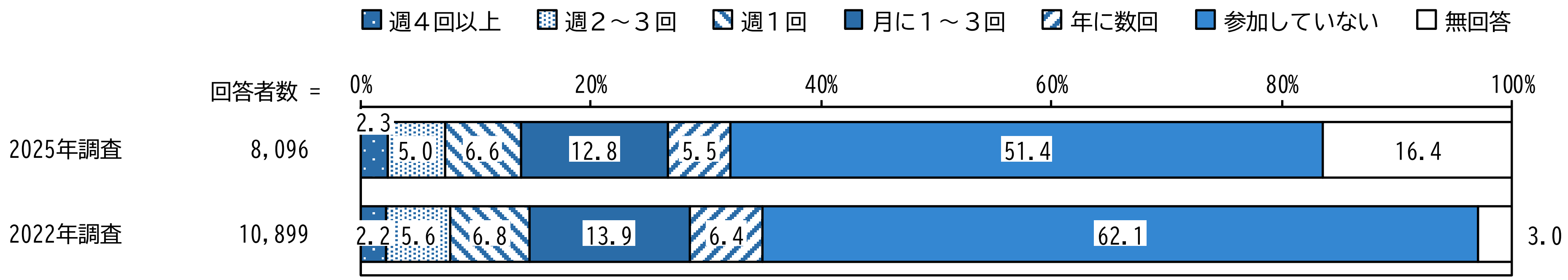
ボランティアのグループの参加頻度は、「参加していない」が 65.0%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「参加していない」が 13.9 ポイント低くなっている。



■ 参加している会やグループ、仕事について

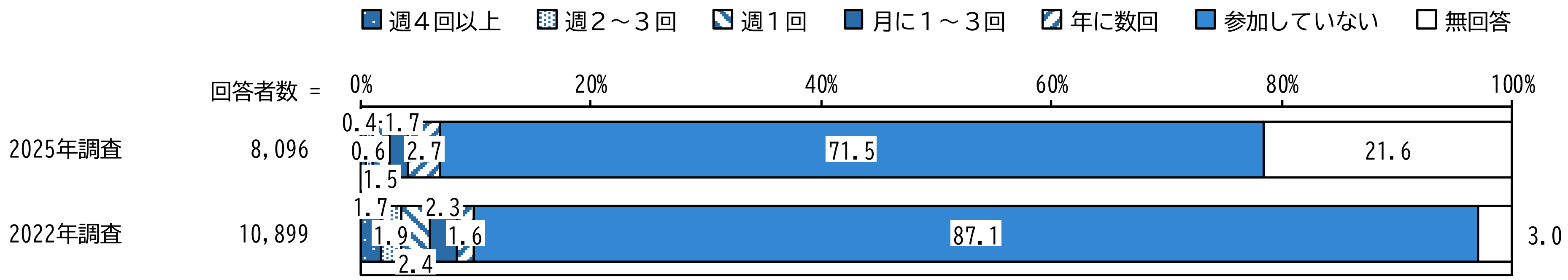
趣味関係のグループの参加頻度

趣味関係のグループは、「参加していない」が 51.4%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「参加していない」が 10.7 ポイント低くなっている。



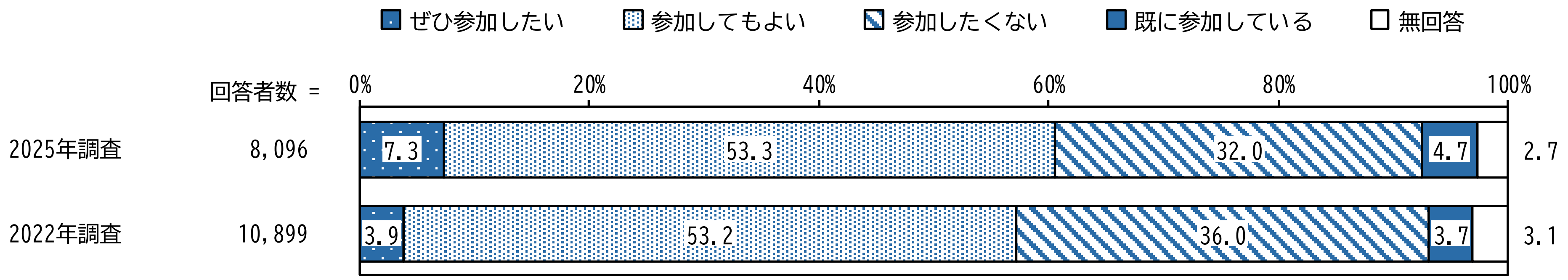
健康体操やサロンなどの介護予防のためのつどいの場の参加頻度

健康体操やサロンなどの介護予防のためのつどいの場は、「参加していない」が 71.5%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「参加していない」が 15.6 ポイント低くなっている。



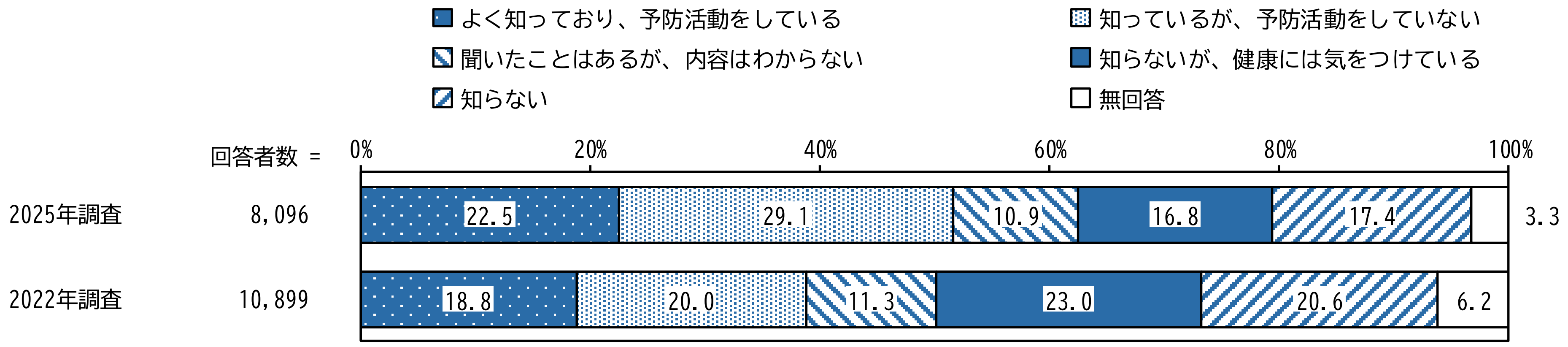
参加者としての参加意向

地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として参加したいかについては、『参加意向がある』(「是非参加したい」+「参加してもよい」の計)が 60.6%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「ぜひ参加したい」が 3.4 ポイント高く、「参加したくない」が 4.0 ポイント低くなっている。



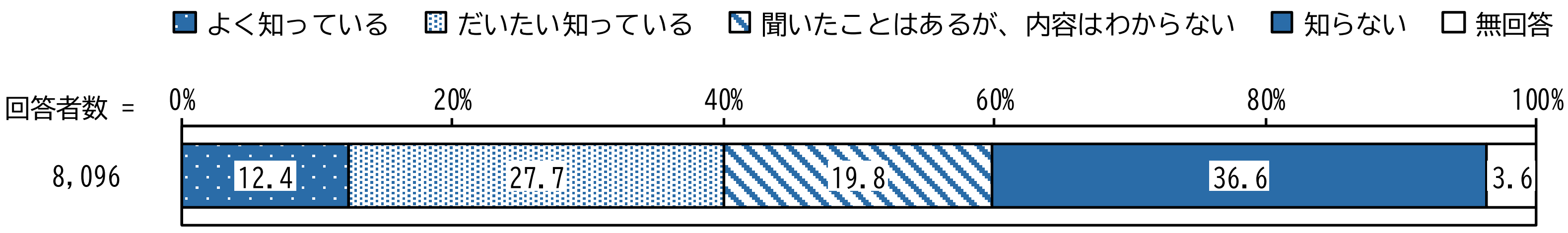
フレイルの認知度

フレイルについて、「知っているが、予防活動をしていない」が 29.1%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「知っているが、予防活動をしていない」が 9.1 ポイント高く、「知らないが、健康には気をつけている」が 6.2 ポイント低くなっている。

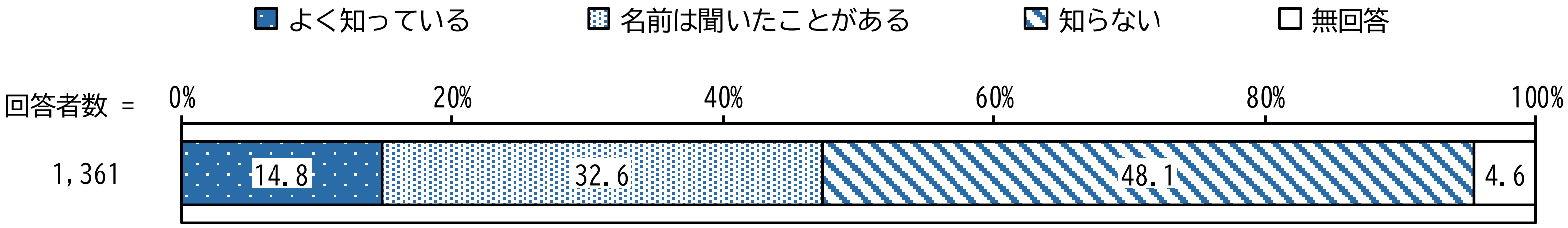


オーラルフレイルの認知度

オーラルフレイルについて、「知らない」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「だいたい知っている」の割合が27.7%、「聞いたことはあるが、内容はわからない」の割合が 19.8%となっている。

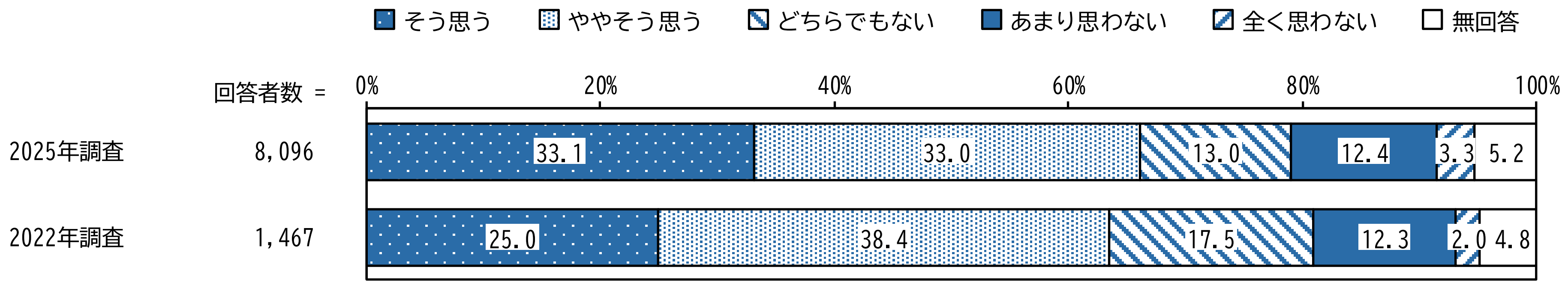


【参考　2022 年調査】



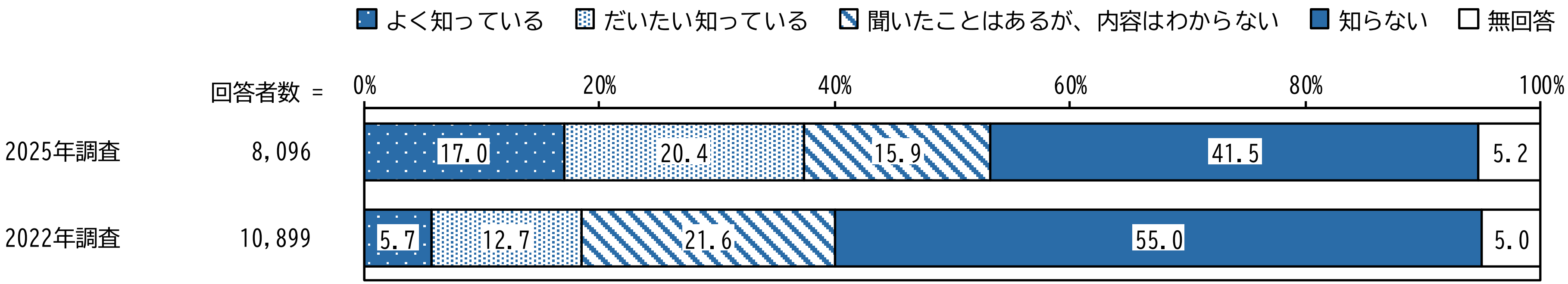
家族が認知症になったら近所の人などにも知っておいてほしいか

家族が認知症になったら近所の人などにも知っておいてほしいかについて、『思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」の計）が 66.1％で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「そう思う」が 8.1 ポイント高く、「ややそう思う」が 5.4 ポイント低くなっている。



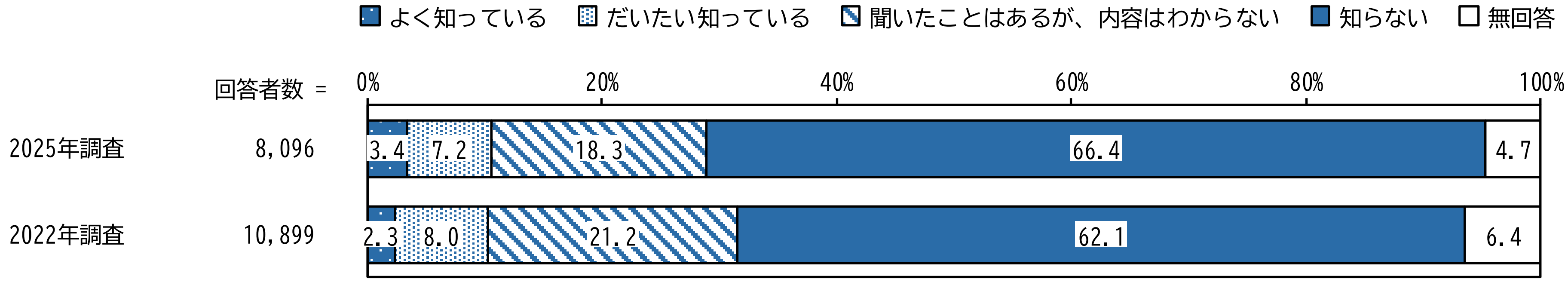
認知症診断助成制度の認知度

認知症診断助成制度の認知度は、「知らない」が 41.5%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「よく知っている」が 11.3 ポイント高く、「知らない」が 13.5 ポイント低くなっている。



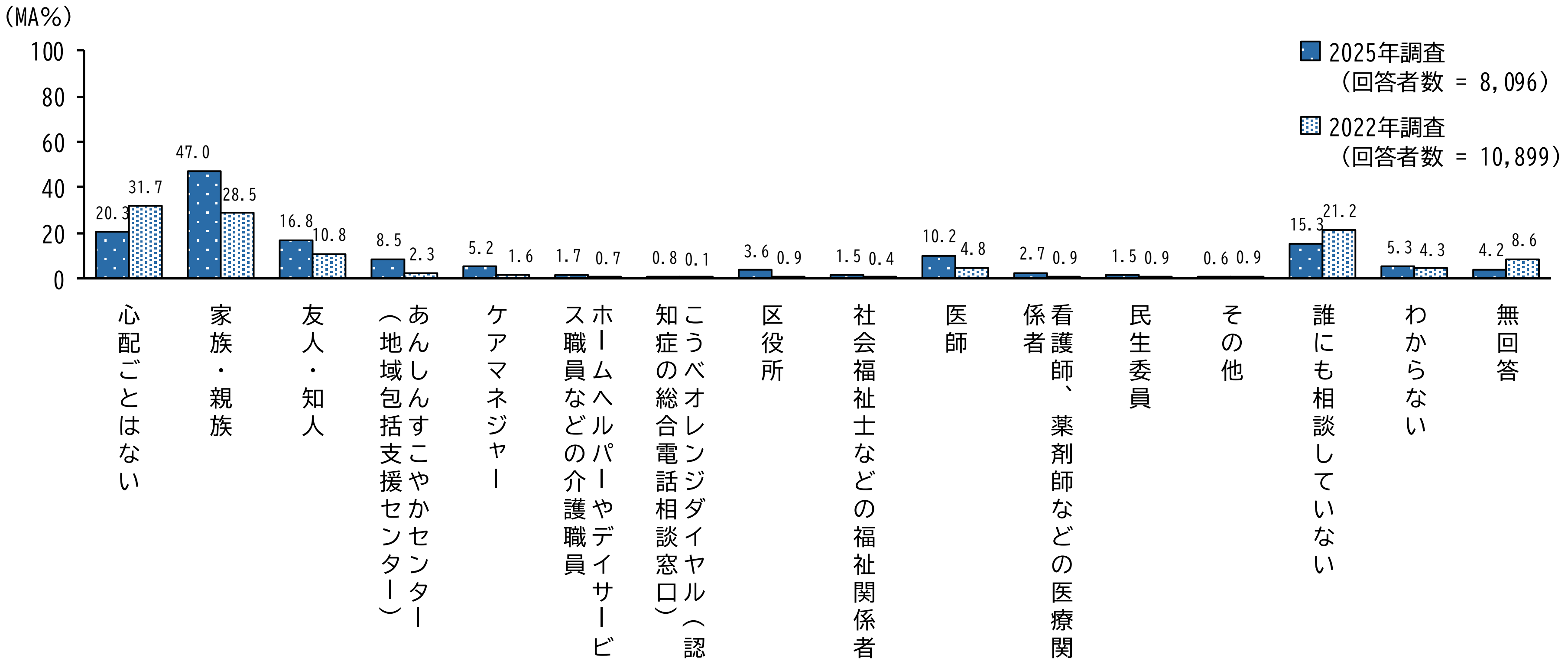
事故救済制度の認知度

事故救済制度の認知度は、「知らない」が 66.4%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「知らない」が 4.3 ポイント高くなっている。



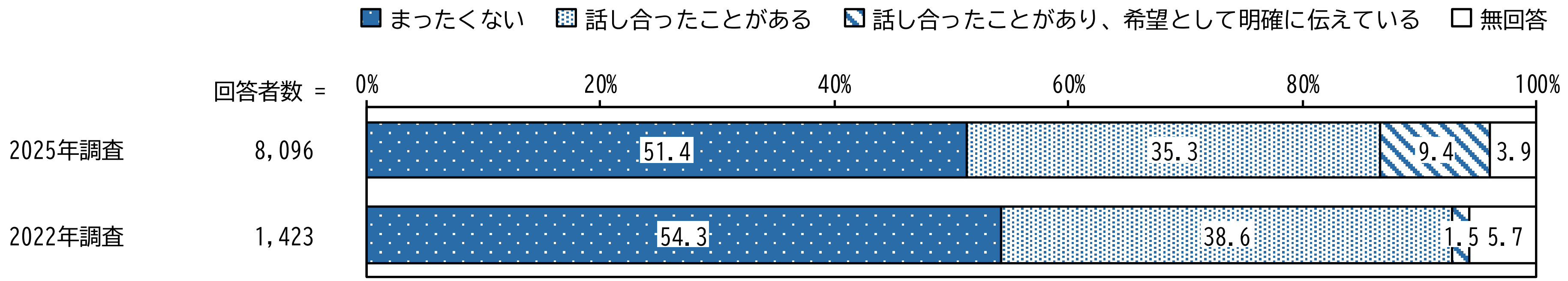
認知症に関する心配ごとの相談先について

認知症に関する心配ごとの相談先について、「家族・親族」が47.0%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「家族・親族」が18.5ポイント高く、「心配ごとはない」が11.4ポイント低くなっている。



終の棲家についての話し合い

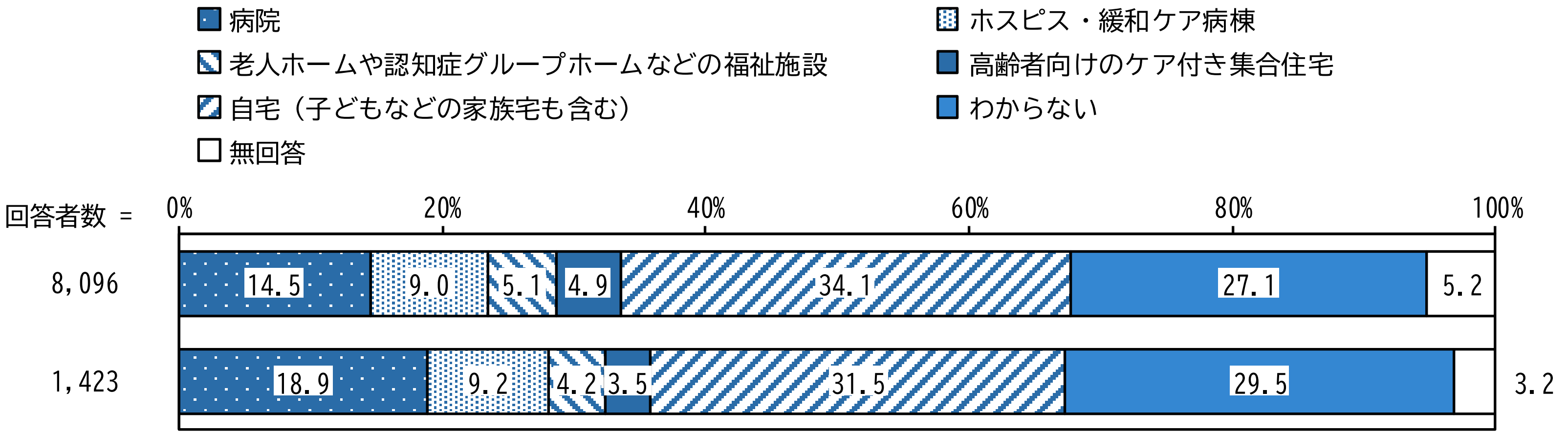
終の棲家について、誰かと話し合いをしているかについて、「まったくない」の割合が 51.4%、「話し合ったことがある」の割合が 35.3%、「話し合ったことがあり、希望として明確に伝えている」の割合が 9.4%となっている。 前回調査と比較すると、「話し合ったことがあり、希望として明確に伝えている」が 7.9 ポイント高くなっている。



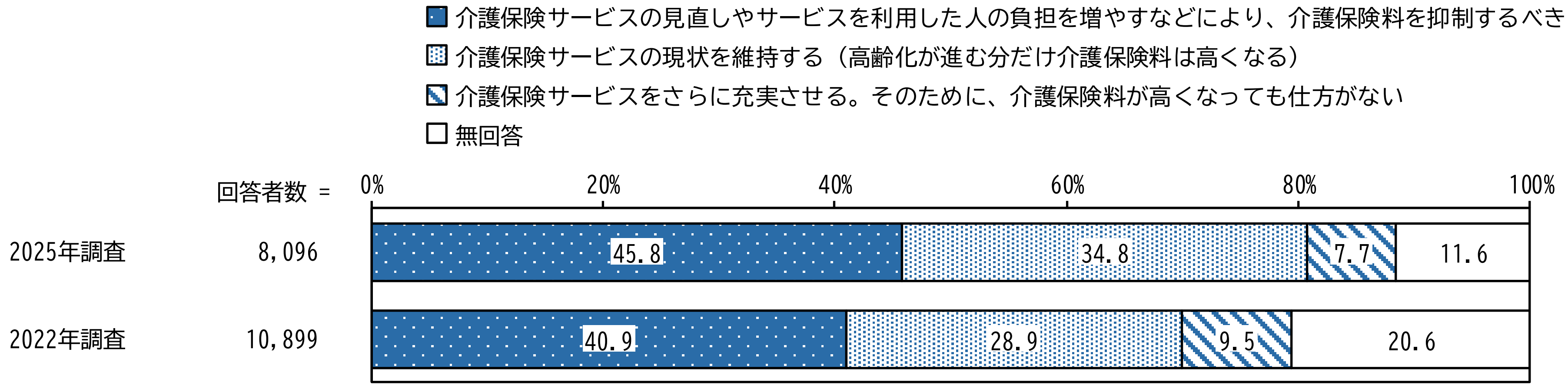
※2022 年調査では、「話し合ったことがあり、希望として明確に伝えている」が「話し合い、結果を紙などに記載した」となっていた。

終の棲家

自分が病気などで最期を迎えるとしたら、どこで迎えたいかについて、「自宅（子どもなどの家族宅も含む）」が 34.1%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「病院」が 4.4 ポイント低くなっている。



■介護保険料について

今後の介護保険料に対する考え

今後の介護保険料に対する考えについて、「介護保険サービスの見直しやサービスを利用した人の負担を増やすなどにより、介護保険料を抑制するべき」が 45.8%で最も多くなっている。 前回調査と比較すると、「介護保険サービスの現状を維持する（高齢化が進む分だけ介護保険料は高くなる）」が 5.9 ポイント高くなっている。